No. 263　2009. 11 発行

ＳＧニュース

〒110-0012東京都台東区竜泉 2-20-2
ﾐｻﾜﾎｰﾑｽﾞ三ノ輪 2 階
発行　財団法人　製品安全協会
電話（03）5808-3300 (代表)

中国昆山の試験機関とＳＧ認証業務の委託契約を締結

～中国昆山でフィットネス製品の型式試験ができるようになりました～

　当協会では中国の工場等登録事業者の利便性を図りつつ、日本に輸入されるフィットネス製品の安全性を確保するため、適宜中国の試験機関の調査を行うとともに、中国におけるＳＧマークの認証業務の委託等について検討を進めております。

　このたび、これまでの調査の結果等を踏まえ、フィットネス製品の適正な試験能力を有し、かつ、公平かつ公正な業務の実施が可能な機関として、「昆山产品安全检验所」との間でＳＧマーク制度の外国業務にかかる委託契約を締結いたしました。同試験機関では、今回締結した契約等に基づき次の品目についてＳＧマークを表示するための型式試験を実施できることになりました。

　型式試験については、工場等登録製造事業者が当協会に型式確認(更新)申請書を提出した後、当協会から同試験機関に型式試験依頼を行うことになりますので、同試験機関での型式試験を希望される場合には、当協会業務グループまでご照会ください。

型式試験が可能な品目
「ぶらさがり器具」「家庭用自転車エルゴメータ」「家庭用トレッドミル」「筋力トレーニング器具」「ステッパ」及び「ローイング器具」

「昆山产品安全检验所」の詳細

名称：昆山产品安全检验所
住所：中華人民共和国江蘇省昆山市新南東路 318 号
電話：＋86-0512-57310060、ＦＡＸ：＋86-0512-57372425

【本件に関するお問い合わせ】
財団法人製品安全協会
〒１１０－００１２　東京都台東区竜泉２－２０－２　ミサワホームズ三ノ輪
広報チーム　若井、岡本　　業務グループ　三枝、菅
電話：０３－５８０８－３３０１(広報チーム)、０３－５８０８－３３０２(業務グループ)
ＦＡＸ：０３－５８０８－３３０５　E-Mail　mail@sg-mark.org

国民生活センター発表「ＩＨヒータ等で加熱する湯たんぽ」に対する製品安全協会の考え方

［経緯］
２００９年１１月４日付けで国民生活センターから「電子レンジやＩＨヒータ等で加熱する湯たんぽの安全性」という資料が発表されました。

［当協会の考え方］
本件各項に対する製品安全協会（以下「協会」という。）の考え方を示させていただきます。
１．「間違って口金をしたまま直接加熱するとゆたんぽが爆発する」及び「間違って口金をしたまま直接加熱し、高温になっているときに口金を外すと、高温の水蒸気が噴出し危険」という指摘について金属製ゆたんぽの特長としてゆたんぽを直接熱源にかけて加熱することが出来るという点があります。これは他の材質（合成樹脂製やゴム製）にはない特長であり、金属製ゆたんぽの最大のメリットとなっています。
反面、水を加熱する過程では水蒸気として体積が膨張をするため、口金（キャップ）をしたまま加熱を継続すればゆたんぽ内が高圧になりますが、これはゆたんぽ特有の現象ではなく、他の湯沸かし可能な容器共通の現象です。この状態で口金（キャップ）を外すとゆたんぽ内外の圧力差によって内部の湯が噴出することも同様です。
協会では、どのような製品であっても使う前には必ず取扱説明書をよく読み、理解をした上で使用することが安全への第一歩だと考えており、ゆたんぽについても例外ではありません。このようなことからゆたんぽのSG 基準及び検査マニュアル（以下「SG 基準等」という。）では取扱説明書に「火にかける場合は、必ず口金を外し、沸騰した湯がこぼれないようにする旨。口金（栓）をしたまま火にかけると沸騰してきた内部の水・空気が膨張し、ゆたんぽの接合部が破裂して熱湯が噴出する旨。」の注意事項を記載するよう規定しています。（「口金を外す」ことをより周知・徹底するため、『口金を外し』という文字を１２ポイント以上の大きさの文字に統一。ただし、その前後の文字が１２ポイント以上の場合には、下線、太字など『口金を外し』という文字が目立つようにするよう規定しています。）

また、単に、禁止事項を記載するだけではなく、禁止をする理由や禁止に反してその行為を行ったときの現象について併記をすることにより注意喚起効果が上がると考えています。
協会では、使用する前に取扱説明書をよくお読みいただき、禁止理由を含めよく理解していただくことが重要だと考えます。

２．「圧力を逃がすような構造がなかった」という指摘について
一部の商品には、確かに圧力調整弁が取り付けられたものがありますが、この弁は内圧が高くなったときに作動するものではなく、逆に内圧が低下したときに作動するものです。これは、内圧低下（湯量が少ないときに冷却過程で生じます）によって、ゆたんぽ各部に大きなストレスが生じることを避けることを目的にしています。
ゆたんぽを通常使用中にもっともクリティカルな傷害は、内部から湯が漏れることによるやけどです。仮に内圧上昇によって作動する圧力調整弁を取り付けた際には、使用過程においてこの弁を通じて外部に湯が漏れ出すことが想定されることから現実には取り付けに至っていないのが実態です。
協会では、現時点では内部から外部に蒸気などを放出する圧力調整弁は不要だと考えています。

３．「本体の注意シールが剥がれやすい」という指摘について
金属製ゆたんぽは直接熱源にかけて加熱することや使用後には水洗いをするなど本体に貼付したシールは相当過酷な状況におかれます。また、一般的に表面形状は波を打っていることから一定以上の大きさのシールを貼付することは非常に困難な商品です。
SG 基準では、この点を鑑み本体への注意事項の表示は規定せず、取扱説明書に記載することを求めています。

繰り返しになりますが、協会では、使用する前に取扱説明書をよくお読みいただき、禁止理由を含めよく理解していただくことが重要だと考えます。

４．IH 調理器具とそれ以外の熱源について

今回の発表では、IH 調理器具対応ゆたんぽについて指摘がありましたが、熱源という側面ではIH調理器具であっても、従来からあるガスコンロや石油ストーブと基本的な違いはありません。とは言え、IH 調理器具は比較的新しい熱源であることや、調理器具自体は熱くならないなどの特長があることから、IH 調理器具対応ゆたんぽについては、「コンロ、ストーブ、IH 調理器具等熱源にかけてご使用いただく際には、必ず口金を外し、～」のように具体的な熱源を列挙し、その中にIH 調理器具（IH クッキングヒータ）を含めることを求めています。
なお、同じ金属製ゆたんぽであっても商品によっては、直火で使用すると変色するなど商品価値が低下するなどの理由から『直火での使用を禁止』しているものがあり、この場合には『直火での使用を禁止』を明記しています。使用する前にこの点について確認することが重要です。

［最後に］

ゆたんぽは、日本古来から古い歴史を持つシンプルかつ洗練された暖房器具ですが、シンプルが故に取扱説明書をお読みいただけないケースが見受けられるようです。必ず使用する前には取扱説明書をよく読み、内容をよく理解した上で使用することが大切です。

なお、協会では昨年から次のようなＰＯＰを作成し、販売店やメーカーを通じて「ゆたんぽの安全な使用」について周知活動を行っております。特に、『低温やけど』については、学識経験者や消費者代表の意見を伺いつつ注意喚起効活動を展開しております。ご理解・ご協力の程よろしくお願い致します。

ゆたんぽは古来から私たち日本に伝わる暖房器具です。
ぬくもりがある暖かさが魅力のゆたんぽですが、使い方を誤ると怪我を負う場合があります。使用前には、ゆたんぽの取扱説明書をよく読み、理解した上で使用しましょう。また、読み終わった取扱説明書は捨てずに大切に保管しましょう。

寝る前にゆたんぽを布団から出す

心地よく感じる程度のものでも、皮膚の同じ部分が長い時間接触しているとやけどを発症します。布団が暖まったら、ゆたんぽを布団から出して就寝すると、低温やけどの危険性はありません。

口金を外す

直接火にかけて温めるときは、口金を外しましょう。IH ヒーターでも同様です。ただし、直接火にかけられるゆたんぽかどうか事前に確認することが大切です。

電子レンジで使えますか？

電子レンジで加熱できるゆたんぽか必ず事前に確認してください。「電子レンジで加熱可能」と書いていない限り電子レンジで暖めないで下さい。

SG マーク付きゆたんぽは、安全性が認証された安心な製品です。

財団法人　製品安全協会
消費生活用製品の安全性に関するご相談は当協会までご連絡ください
〒110-0012 東京都台東区竜泉 2-20-2 ミサワホームズ三ノ輪２階
TEL：03（5808）3300　FAX：03（5808）3305
URL http://www.sg-mark.org

【本件に関するお問い合わせ】
財団法人製品安全協会
〒１１０－００１２ 東京都台東区竜泉２－２０－２ ミサワホームズ三ノ輪
広報チーム 若井、岡本 業務グループ 松田
電話：０３－５８０８－３３０１(広報チーム)、０３－５８０８－３３０２(業務グループ)
ＦＡＸ：０３－５８０８－３３０５ E-Mail mail@sg-mark.org

2009年度SG新規登録工場一覧(10月末現在)

品目名	登録日	企業名	国名
プラスチック浴そうふた	2009/8/24	株式会社アスミ製作所	日本
ゆたんぽ	2009/5/7	KEIHAN METAL (DONGGUAN) Co., Ltd.	中国
ゆたんぽ	2009/7/29	CHEN TAI PLASTIC PRODUCTSFACTORY	中国
ゆたんぽ	2009/09/08	東莞市程業電子科技有限公司	中国
自転車	2009/10/30	天津富士達自転車有限公司	中国
棒状つえ	2009/08/06	Danyang Maki Lifetech Co,.ltd.	中国
歩行補助車	2009/06/24	島根ナカバヤシ株式会社	日本
歩行補助車	2009/08/06	Danyang Maki Lifetech Co,.ltd.	中国
歩行補助車	2009/09/08	寧波仲林文化用品有限公司	中国
手動車いす	2009/08/06	Danyang Maki Lifetech Co,.ltd.	中国
歩行車	2009/09/08	寧波仲林文化用品有限公司	中国
クッキングヒータ用調理器具	2009/06/10	厦門安聯企業有限公司	中国
自動車用油圧式ガレージジャッキ	2009/04/30	LIFTMASTER MACHINERY (ZHEJIANG)Co., Ltd	中国
自動車用油圧式ガレージジャッキ	2009/06/04	Changshu Tongrun Auto Accessory Co.,Ltd.	中国

SGニュースへの掲載記事の募集

今後、「SG ニュース」への記事掲載のご希望がありましたら、内容吟味のうえ、支障のない範囲で掲載させていただきます。ここで言う〔支障のない範囲〕とは、当協会は公益法人であることから、例えば、特定企業の宣伝になるようなものではない旨を意味します。

ご希望の方は、E-Mail:sg-news@sg-mark.orgにて、『SGニュースへの記事掲載を希望』とご記入のうえ、ご氏名、所属先、連絡先及び記事要旨をお書き添えいただくことにより、お申し込みください。こちらから連絡のうえ、内容についてお打合せさせていただきたいと存じます。

SGニュースのメルマガ配信

メルマガ配信をご希望の方は、E-Mail:sg-news@sg-mark.orgにて、『SGニュースのメルマガ配信を希望』とご記入のうえ、ご氏名、所属先もお書き添えいただくことにより、お申し込みください。また、「SGニュース」のメルマガ配信停止をご希望の方は、前述の配信申込と同じ方法で『SGニュースのメルマガ配信停止を希望』とご記入のうえ、ご連絡ください。なお、「SGニュース」は、当協会ホームページhttp://www.sg-mark.orgでも引き続き公開いたします。

****
消費生活用製品の安全性に関するご相談は当協会まで。　発行人　若井　博雄　【URL】http://www.sg-mark.org
****